

令和6年度 日本体育大学卒業式 訓辞

本日ここに学士の学位を取得し、卒業される皆さん、おめでとうございます。また、これまで皆さんを励まし、応援し、支えてくださった保護者ならびにご家族の皆様、本日は誠にありがとうございます。これまでの本学の教育活動へのご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

日本体育大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。そして本日、すべての卒業生が一堂に会して、卒業式を挙行できますことを心から、うれしく思います。

さて、皆さんが入学した4年前、私も学長として、初めてこの場に立ちました。皆さんが緊張しながらも式に列席したように、私も緊張して皆さんと対面していたことを思い出します。また、皆さんが入学した2021年4月は、新型コロナウイルスとの戦いが第二ステージに入る頃で、医療従事者にワクチンが接種されていた時期でした。本学では少しでも学生の皆さんに安心して授業が受講出来るように、日本国内の大学として最初に学内においてワクチン接種を実施しました。また、日体大らしい授業を提供するために隔週での実技の授業を受講してもらうなど、皆さんの健康を守りながら、日体大に入学してよかったと思えるような環境を提供できるように努力してまいりました。

日本体育大学は身体を通して、特に体育スポーツを学習のツールの中心としながら、学問を学び、社会性を身に付け、さらに人としての生き方を学ぶことで、人間力を高めていくことを歴史的に志向してきた大学であるわけですから、感染症の拡大は、まさに教育の根幹を揺るがす大きな出来事でもあったわけです。しかし、このコロナ禍を経験することで、改めて、人と人が直接対面し、コミュニケーションをとることの重要性や、みんなで協働して何かを成し遂げることのすばらしさを再確認することができました。また、こうした時期を経験する中で、社会そのものが大きく変化した部分もありました。大学教育では、オンラインやオンデマンドによる授業が当たり前となり、大学にいなくても一定数の授業がメディアを使うことで受講できるようにもなりました。大学教育も、このコロナを契機として、いまの時代に対応した授業提供を行うようになりました。またこうした授業の在り方については、その後、より効果的な授業へと日々改善がなされるようになりました。

コロナ禍のこうした記憶もすでに過去のものとなってきています。しかし、皆さんのこの経験は、間違いなく今後の人生において困難を乗り越えていく上での力となるはずですよ。

皆さんがこれから旅立つ社会は、もしかすると時代の節目となるような時期に当たるの
かしれません。今までに人類が経験したことない出来事や予測困難な時代に入り込んでい
るように見えるからです。例えば、生成 AI などのテクノロジーの急速な進歩、気候変動
による災害の増大、人口動態の変化による社会構造や社会経済の根本的な組み換え。また
国外に目を向けるとアメリカのトランプ政権に代表されるような自国第一主義の台頭や地
域・国家間での武力紛争など、直接的・間接的に私たちの社会と連動し、大きな影響を与
えるようになっているからです。まさに行き先、不透明な時代ではありますが、皆さん
は、大学の学びを通して、そうしたことに対処し得る力を身に付けてきました。本学での
学びと経験を活かし、様々な課題に立ち向かっていただければと思います。

ところで、卒業にあたり、学長として、また先輩として、皆さんの心に留めておいてほ
しいことがあります。それは、これから先の時代を迎えるための心構えのようなもので
す。これからの時代は地球規模で見れば、人口増加は続きますが、日本国内においては人
口減少が進み、少子高齢化はますます加速化します。このような時代にあって社会をより
安定的に持続可能にしていくための条件の一つが、「健康寿命の延伸」であり、ここに近
未来の大きな鍵があると考えられています。ロンドン・ビジネススクールのアンドリュ
ー・スコット教授とリンダ・グラットン教授は、世界的ベストセラーである『ライフ・シ
フト』という本を書いています。この中で「世界でいち早く長寿化が進んでいる日本は、
他の国のお手本となるのではないか」と述べています。少なくとも 21 世紀に生まれた皆
さんの 50%は 100 歳を超えて生きることになると予測されているからです。長寿化が進む
ことによって、「老い」の概念が大きく変わり、人生設計をし直さなければならなくなり
ます。そして「教育→仕事→引退」といった、これまでの固定化された 3 ステージの人生
ではなく、ステージの移行を数多く経験する「マルチステージ」の人生に突入するだろ
うと予測されています。そこで必要なのが、画一的な生き方にとらわれず、生涯を通じて
「変身・変化」し続ける覚悟です。実際のところ、現在では終身雇用は崩れ、転職するこ
とはさほど珍しいことではなくなりましたし、また、仕事をやめて留学したり、勉強しな
おしたり、起業したりする人たちも多くなりました。マルチステージはすでに始まっている
わけです。

もう一つ、100 年時代に重要なポイントは、無形資産と有形資産をバランスよく持つこ
とです。ただし、金銭と直接関係する有形財産よりも、特に家族や友人関係、人脈、知
識、健康といった無形資産が重要で、これが人生を豊かにして、幸せにすると言います。

皆さんは、少なくとも大学時代に他には代えがたい友人関係を作ってきたと思います。
特にクラブ活動や寮での友人関係は、生涯にわたり繋がりを持つものです。こうした繋が

りは、社会人になってからは、なかなか作り上げることができません。どうぞ、大学時代の友人関係を将来にわたって、大切につなげていてもらいたいと思います。

人生 100 年時代はすでに始まりつつあります。皆さんがもう少し歳を重ねる頃には、100 年時代が当たり前のことになるでしょう。それを見越して人生を設計し、戦略を立てていただきたいと思います。

最後になりますが、卒業生の皆さんの今後の大いなる活躍と、なお一層の発展を祈念し、学長としての訓辞といたします。本日はおめでとうございます。

令和 7 年 3 月 15 日

日本体育大学 学長 石井隆憲